

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

10
2018



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

Full Gospel Tokyo Church

CONTENTS

- 3 山は比較できない イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム チョウ・ヨンギ牧師
・新しい人生
- 6 メッセージ 志垣重政牧師
・信仰の量りに従って
- 9 特集 | タイの洞窟の少年たちを通じて希望を見る
・信仰を持つ人はいかなる状況においても放棄しない
- 16 信仰の明文化を成し遂げますように^{③1} イ・ヨンフン牧師
・初代教会の姿を回復しよう
- 20 主と歩く ヘンリー・グルーバー牧師
・夜明けが差し迫っている
- 25 十字架の壇上 カン・サン牧師
・約束の主、約束の人
- 30 我が人生のプラス
・神様は我が人生の希望
- 35 これが知りたい シン・ソングジョン牧師
・原本のない、写本だけで決めた聖書を
いかに信じることができるだろうか？
- 37 特別寄稿 | 人が悔い改めるなら、地も回復される
・「わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その血をいやす」
／ソン・ヒョングジョン牧師
- 43 愛 | イカンフン伝道師
・文化の働きと教育を通じて次の世代を神様のもとへ

この「しなげ」は、おもに韓国版信仰界 9 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

山は比較できない

イ・ヨンフン 牧師

愛する者よ。
あなたのたましいが
いつも恵まれていると同じく、
あなたがすべてのことに恵まれ、
またすこやかであるようにと、
わたしは祈っている。
(Ⅲヨハネ 1:2)

登山家ムン・ジョンナムさんの話です。彼は現在 79 歳で、これまで 20 年以上に渡って 1 万 7 千峰に登山しました。高校教師だった彼は、定年をあと 2 年に控えた 1998 年に校長から生徒指導部長を務めてほしいと頼まれ、教師としての最後の使命と考えて、学生の規律指導に専念しました。情熱を傾けた末にストレスが溜まったのか、その後直腸癌と肝癌との診断を受け、余命宣告されるに至りました。しかし彼は登山を通して闘病し、山ばかりでなく癌までも征服した闘志の人物です。今は高齢ですが、「地球上の全部の山に登りたい」と気炎を吐いています。

放送のインタビューでアナウンサーが尋ねました。「雪岳山(ソラクサン)をはじめ、これまで名山といった名山は全部登ったと思いますが、ランクを付けるとしたらどの山が最も良かったのでしょうか？」彼はこう答えました。「山にはそれぞれに特徴と魅力があります。だから比較はできません。」

彼の言葉を聞いて、色々と考えさせられました。果たして、これは山だけに言えることでしょうか。山よりも偉大な存在、万物の霊長である人間も同じです。いや、人はさらに人格を持ち、すべての個人が高貴で素晴らしい存在です。特に「この宝を土の器の中に持っている」(Ⅱコリント 4:7) とパウロが語っているように、救われた主の民、天国の民は誰であれ、すべてが偉大で尊い存在です。どんな計算や評価でも計り知れない「名山中の名山」です。

そのような人々は他と比較できるものではありません。自ら恵みを受けていることを悟り、ワクワクしながらあらゆる人生の山や問題、試練、障害に立ち向かい、人生の目標を目指して登頂する人——こうした人々こそ幸せな人です。†



新しい人生

イエス様は十字架を通して私たちの新しい姿を写真で撮って下さいました。ところが未だに罪の捕虜となって、悪魔に踏みこじられて、病んで、呪いと死の奴隷となって、悲劇的な人生を生きている人がどれほど多いかわかりません。このような人は自分の姿を見てから、忘れてしまった人です。

皆さんは新しく撮られた自分の姿を、心の壁の上になければなりません。そして昼も夜も見つめなければなりません。自分の新しい姿を見つめる時、どれほど大きな変化が起こるかわご存知ですか。聖書には次のように記してあります。

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(Ⅱ コリント 3:18)

私たちは、私たちがみつめる通りに変化します。イエス様が撮って下さった、新しい自分の姿を朝、昼、晩、24時間見続けると、神の御霊が臨まれて、栄光から栄光へと主の姿に似た形



趙 鑄基
(チョー・ヨンギ)
ヨイド純福音教会元老牧師

に創って下さるのです。

神様はアブラハムを祝福して下さいました時、何と言われましたか。ロトを送り出したアブラハムに「ロトがアブラムに別れた後に、主はアブラムに言われた、『目をあげてあなたのいる所から北、南、東、西を見わたしなさい。すべてあなたが見わたす地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。』」(創世記 13:14-15)と言われました。この御言葉を見ると、「見わたす地」を与えると仰いましたが、「見わたしてない地」を与えるとは仰いませんでした。

大勢の人は間違った自分の姿を見つめています。病んでいる姿、飢えている姿、事業に失敗した姿、絶望的な姿、狼狽した姿を心の中に描いて、一日中その写真だけを見つめています。そうすると、盗んで殺す悪魔の霊が来て、病にかかって、飢えて、事業に失敗して、狼狽するようにするのです。しかし、皆さんが「私はイエス様によって罪は無くなり、悪魔に打ち勝って、病気から解放され、呪いから贖われて、死から勝利した。これが私の姿である。」と告白して、その写真を見つめると、神様の聖霊は皆さんが見つめている通り変えて下さいます。

今日、皆さんの心の中にはどのような姿を掛けて置いたでしょうか。変化を願っていますか。新しい人生を夢見ていますか。まず、心の窓の上に新しい姿を掛けて置きましょう。†



信仰の量りに従って

—— ローマ人への手紙 12 章 3 節 ——

人類は、科学や文明によって運命を変えようと努力してきましたが、成し遂げることはできませんでした。いつ、どこで、どんな背景で生まれるのかを自らの力で決めることも、両親や兄弟姉妹を選ぶこともできません。人は、与えられた環境の中で、創造的で生産的、かつ建設的にベストを尽くすしかないので。

本文にあるように、私たちの人生は、神様の手の平の上であり、信仰の量も神様がお決めになり、それぞれに与えてくださったものです。神様から与えられたものを否定することも、与えられてもないものを肯定することもできません。

マタイによる福音書 24 章 14 ～ 30 節に、主人が僕にそれぞれ 5 タラント、2 タラント、1 タラントを預けて長期出張に出る例え話がありますが、主人が帰国した際に、預けたものの決算を行ないます。5 タラントを預かった者は 5 タラント儲けて 10 タラントを、2 タラントを預かった者は 2 タラント儲けて 4 タラントを主人に返します。ところが、1 タラントを預かったものは、地に埋めて置いていただけだったので、そのまま 1 タラントだけを返還します。主人は怒ってその 1 タラントを取り上げ、別の者に与えてしまいます。主人は、主人の考えに従って、それぞれ



わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思ふべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思ふべきである。(ローマ 12：3)

にタラントを預けましたが、量は違っても与えられていない僕はいませんでした。聖徒の皆さんは、この話の深い意味を悟らなければなりません。信仰の分量とは、信仰の量りに応じて暮らすとはどういうことなのかをお話いたしましょう。

聖書には、信仰の分量を知らずに、大変な目に遭った者たちがたくさん出てきます。イスラエルの民がエジプトを脱出して紅海の前に来た時、後ろからはパロの軍団が追いかけて来ます。信仰の分量の小さい民は嘆きましたが、大きな信仰が与えられていたモーセは、紅海を真っ二つに割り、そこに準備されていた道を通して民全員を渡らせます。丁度、渡り終えた時に、パロの軍団も紅海に到着し、イスラエルの民を追って海の中の道に入ります。ところが、彼らには信仰が全くなかったのが、海が閉ざされ全滅した話は、皆さんもよくご存じでしょう。

また、祭司長スケアの 7 人の息子たちがパウロの真似をして悪霊を追い払おうとしますが、信仰の分量が少ない彼らは、逆に悪霊にやられてしまう場面が使徒行伝 19 章 14 ～ 17 節に出てきます。これも信仰の分量を超えたから起きた出来事です。信

仰は育てるものであって、真似するものではないからです。

次に、己の信仰の分量を悟る知恵が必要になります。信仰の量りに応じて求めるべきであり、食欲に従って求めれば、悲惨な結果を招くようになります。急いでもいけません。急いで食べたら、消化不良を起こすのと同じです。また、他人と比較し、競争しようとしてもいけません。信仰の分量を超えてしまうからです。大切なことは、現在与えられているタラントに従って、小さなことに忠実であることです。今、置かれている状況を呪ってはなりません。忍耐をもって、与えられたタラントを活かすことに全力を傾けるのです。そうすれば、間違いなく豊かな実を結ぶことができます。

最後に、持っている者にはさらに与えられるという原則を覚えましょう。子どもが成長するように、人の信仰も成長します。最初は、小さな信仰だけが与えられた人でも、信仰生活の中で、その成長を実感する 때가必ずやってきます。その時、私たちはその信仰の量りに応じた姿勢を持ち、暮らしも成長させていかななくてはなりません。子どもが成長すれば、新しい服に変えなければならないように、信仰が成長しているのに、同じ暮らしの服ではいけないのです。信仰の度合いに応じて暮らしも変わっていくべきです。家庭も職場も事業場もスケールアップしていくはずです。

背伸びしすぎても、同じ場所に留まり続けてもいけません。食欲ではなく、信仰の量りに応じて与えられたタラントに従って、大胆に実を結ぶ聖徒の皆さんでありますよう、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。†

✳️ **特集** | タイの洞窟の少年たちを通じて希望を見る

チェ・カンハ ヨンフン高校教師

信仰を持つ人は、 いかなる状況においても 放棄しない



去る6月、タイの幼少年サッカーチームとコーチ、13人が洞窟の中で遭難した。タイのムーパ・アカデミーのメンバーである少年12人とコーチ1人は、6月23日に午後の訓練を終え、観光目的で洞窟に入った。しかし、突然の大雨で洞窟内の水路の水位が上昇したので、彼らは孤立してしまった。全世界は非常状態となった。彼らを救出するためにタイだけでなく、イギリス、アメリカ、オーストラリアなど、世界各国の洞窟専門家、ダイバー、医師などの多くの人力や装備が動員された。これら

の人たちの献身の努力、放棄せぬ情熱、そして分析的で体系的である洞窟調査及び探検により、遭難から17日ぶりに13人、全員が救助されるという驚くべき奇跡が起こった。

しかし何よりも大功労者は、12人の子どもたちと共にいて、彼らを安心させ、導いたサッカー団コーチ、25才エカフォル・コーチのリーダーシップがあったからだといえる。彼は最後まで放棄せず、洞窟で子どもたちの面倒をみた。子どもたちの不安な気持ちを静め、肉体的エネルギーの消費を防ぐために大声を出したり、動き回ることを禁じた。そして、少量のお菓子を少しずつ分け合って食べるようにした。飲料水は、下の濁った泥水ではなく、天上に付いた水滴を飲むようにした。そのおかげで、少年たちが発見されるとき、彼らの健康状態はそれほど大きく損なわれていなかった。

命を愛する心

何よりもエカフォル・コーチは、「私たちは必ず無事に救出される。洞窟では死なない」と、子どもたちに確信を与え、希望と意志を植え付けた。子どもたちはこのようなコーチを信じて従った。彼はクリスチャンではない。それなのに、彼がとった行動は、私たちに示唆するところが大きい。その落ち着き、責任感、知恵、肯定的マインド、仕えるリーダーシップなどがそれに該当するといえよう。しかし何よりも、他人の命を愛する心を学ぶべきではないだろうか。

イエス・キリストはこの地に来られた。愛の神がこの世に来られたという事実は、理論ではなく、行動であった。そして、十字架を背負われたその愛をもって私たちを生かす行動によって確証なさった。つまり、自分は死んでも良いという行動をな

さったのである。キリストの愛は、決して放棄できない愛だった。よって、主はご自分の人たちを最後まで愛された。その最後まで放棄しない愛は、命を生かすようになるのだ。

私が勤務していたヨンフン高校には特別なクラスがあった。そのクラスは、文科と理科ではなく、「生活教養クラス」——生活に不適応する子、勉強が嫌いな子、酒、たばこ、暴力、ゲーム、性関係など、世の文化に中毒された子、悪口を除けば失語症に罹るなど、問題だらけの子どもたちが集まるクラスだ。祈りの中で主が私に、このような御声を与えてくださった。

「このクラスを受け持ちなさい」—— 神の御声のゆえに従順した。自ら志願して集まった子どもたちは、およそ49人だ。

午後4時が終礼時間だが、3時59分30秒に来て時刻処理をしてくれという子どももいる。盗難事件、暴力事件、青少年立ち入り禁止の所で飲酒し摘発された女学生、男子生徒と性関係を持ち摘発された子どももいる。落ちるところまで落ちた子どもたちだが、叱る気にはなれなかった。こういう子には必ず原因があると知っているからだ。

49人中27人が片親や親のいない子どもで、愛を受けたことのない子、祖父母家庭が8人、少年家長が1人いた。愛の言語五つの中、最も多く出た言葉は「共にする時間」だった。子どもたちは愛されるべき時期に愛を受けていなかった。主イエスの放棄せぬ愛を思い出し、私は子どもたちのために祈り、慰めた。彼らにも必ず、賜物が一つ以上は与えられているはずだと信じていた。だから、それが発揮されることを望み、忍耐しながら祈って待っていた。そんな中、子どもたちは私に心を開くようになり、

信頼し始めた。子どもたちが望んだので、一緒にカラオケにも行ったりした。山にも登り、映画を観に行ったりもした。有名な方々を招待し、講演会を開いてそれに参加させた。人はどういう人に出会えるかによって人生が変わる。

そうして一年が終わろうとした頃、私たちの学級に驚異的变化が起こった。49人中20人が資格を取得し、8人が専門学校に入学した。彼らの内から欲望が消え去りつつあった。このクラスだけの礼拝が始まり、6人の子どもがイエス・キリストのように生きたいと、主に献身する者が出てきた。そして、ただ教会に来るだけで、中毒的にゲームをしているとしか思えなかった学生が、この学校のアプリを作り、クッミン大学コンピュータ工学科に合格した。しかも7等の成績で合格した。さらに驚くべきことは、その子が入学してから奨学生として選定されたということだ。

人は誰に出会えるかによって、その人の人生が変わるようになる。そして、真の変化は自分自身だけでなく、他人に希望を与える道具として生きようにもなる。この子どもたちは忍耐と希望を学び、放棄せぬ熱情を学ぶことができた。生きていく中、誰もが危機や苦難はある。重要なのは、それをどう受け止めて対処するかがカギとなるのだ。

世に打ち勝たせる信仰

ダニエルはネブカデネザル王に捕らわれ捕虜となった。彼は、王が賜った珍味を拒んだ。信仰の決断をしたのである。神が関与なさって宦官の長の心を動かし、ダニエルは保護された。王の珍味を食べず菜食だけを摂っても、彼の健康は維持された。

パウロとシラスは捕らわれ、監獄に入るという苦難を受けながらも、神に賛美と祈りを捧げた。神は彼らと共におられ、獄門を開いてくださった。この過程を通して看守とその家族、部下たちがイエス・キリストを受け入れた。

このように自分に押し寄せてくる苦難と苦しみを、信仰をもって克服した信仰の先人は多い。私たちに重要なのは、環境の変化ではなく、自分の信仰である。神の大いなる御愛、そして、その愛をイエス・キリストを通して示された神の大いなる御恵み、それを信じる信仰は環境を克服し、この世に打ち勝たせるのである。特に、エカフォル・コーチのように、誰かを導くリーダーの位置にある人ならなおさらのこと、仕えるリーダーシップが重要である。

神がモーセに与えられた使命は、エジプトにいるイスラエルの民を脱出させることだった。モーセは神の杖をもって紅海を割く奇跡を起こし、民たちを脱出させるというリーダーシップを発揮した。絶えず祈り、神の導きを求めるモーセの仕えと献身、そして信仰を私たちは学ぶべきである。

ネヘミヤに臨まれた神は、エルサレムの城壁を再建することだった。その御命令に従順するネヘミヤを、人々は嘲笑った。サンバラテ、トビヤ、アシドド、アラビヤの人たちだった。特に、トビヤは「彼らの築いている城壁は、きつね一匹が上っても崩れるであろう」と嘲弄した。しかしネヘミヤのリーダーシップは、神の御言葉に従順するリーダーシップだった。残っている人たちを集め、見張り者を置き、昼夜に警備した。そして、祈りながら最善を尽くした。ネヘミヤは、「敵を恐れず約束を覚え、自

身が愛する人たちのために戦いなさい」という神の御声も聞いた。結局、ネヘミヤはエルサレムの城壁を再建した。

霊的リーダーシップを持つ人

ある学校で克己訓練を行なった。学生たちを7～8人ずつ組み、組ごとに羅針盤を一つずつ渡した。そしてリーダーが、山の決められたコースを通して山頂に登り折り返してくることだった。ところが、遂行する過程に天気が悪くなり、雨が降り出した。予報と違った天候のゆえに、組員たちは急いで決まったコースを回り戻って来た。しかし一組のみが戻って来なかった。その組を導いたリーダーは、突然降り出した雨の中で羅針盤を見たが、確認することができなかった。7人の組員たちは道を誤り、山の中で道を失ってしまった。徐々に暗くなり、雨は前が見えないほど強くなっていた。

リーダーは、知恵を与えてくださいと神に祈った。一步間違えば、組員たちが負傷し命を失うかもしれない、と考えたからだ。また、自分がリーダーであるから彼らを導く者は自分しかいないと、責任感も作動した。神の知恵を確認したリーダーの学生は、子どもたちにこのように言った。「皆、こちらに集まって。今から私の話をよく聞いて。でなければ本当に大変なことになる。」

大雨の中、恐れ震えていた子どもたちは頷いた。リーダーは子どもたちに腰の帯紐を解くように言った。そして、その帯紐を繋ぎ合わせて円を作り、その中に全員が入るようにした。それは遺脱を防ぐためだった。さらに言った。「皆、座って一緒に歌おう。大きい声で」と言った。

大雨が降る夜に山中で、子どもたちは大声であらゆる歌を歌った。ひんやりする天候の中、子どもたちは震えていた。歌う声

も徐々に小さくなっていた。リーダーは自分の腰の帯紐を取って、こう言った。「皆、歌わなければならない。仕方ないけれど、今からは歌わない人には罰を与える。」

組員たちはまた歌い出した。声が小さくなっている子がいれば、リーダーは自分の帯紐で思いっきりその子を叩いた。山の下では大人たちが大騒ぎになっていた。子どもたちの親や、教職員、警察など、すべての人が一丸となって子どもたちを探していた。その時だった。どこかでかすかに聞こえる歌声が雨音に混ざって聞こえてきた。それから子どもたちはすぐに発見され、驚くべき光景が目に入った。子どもが怯えて震えながら、帯紐で縛り合わせた円の中に座り、歌っているではないか。また一人の学生は、帯紐を持って振り落としながら、大声で叫ぶ場面があった。彼は、どこかでぼんやりした明かりを見、「もう大丈夫だ」と思ったのか、その場に倒れてしまった。結局のところ、このリーダーの知恵で、全組員は無事に戻ることができたのだ。

偉大な信仰の勝利であった。信仰を持つ人はいかなる状況の中においても、決して放棄しない。彼らは、いつも神が共にしてくださると信じる。また、霊的リーダーシップを持つ人は、絶対に放棄せず、神に知恵を求める。そして、神の御声に従順する。神はその信仰をご覧になり、不可能な状況においても逆転のドラマを演出し抜くのである。

聖書の中の神の人たちは、状況の中で神を信じ、信仰をもって勝利しながら生きてきた。特に、子どもたちの魂を顧みるエカフォル・コーチの位置のような役割をする人たちは、神が与える知恵と悟り、そして忍耐と希望、神による奇跡が演出されることを信じ、前進しなければならないのである。†

初代教会の姿を回復しよう



「私は正しくあなたは間違っている」

聖書の教訓はいつも一つになることだ。神様は教会の連合と一致を願われる。しかし、韓国教会の最大の問題点は神様が喜ばれる「一つになること」を疎かにしていることだ。その間韓国教会は律法主義の物差しで他者を判断しながら「私は正しく、あなたは違う」という白黒思考の罠に陥った。その結果、絶え間ない論争の渦に見舞われてしまった。韓国教会が神学的解析の差異でイエス長老会とキリスト教長老会、統合派と合同派などに分かれてしまったが、広い視野で見ると、このすべての分裂は特段の意味を持たない。

チョー・ヨンギ牧師は誠に大きな心を持っておられるしもべだ。デグアン高等学校を卒業後、大学進学問題でチョー牧師に相談に行った。もし、牧師が教団神学校進学を望まれるなら言うまでもなくそこに進学する考えだった。しかし、牧師は違う

考えを持っておられた。

「延世大学の神学科に行きなさい。若い時は包容性のある学問を勉強するのも良いことだ。延世大の神学科は少し進歩的ではあるが、広い学問の世界で遊泳することも良い。」 チョー・ヨンギ牧師は大きな人だった。私は延世大学で信仰と神学の広い包容性、そしてエキュメニカル精神を学んだ。私が今、韓国教会の連合運動の小さな役割をある程度全うできることも、すべてこのような包容性から始まっている。進歩はあまりにも進歩に、保守は保守に行き過ぎると、葛藤が深くなる。そうなると連合は小さくなる。進歩も必要で、保守も必要だ。重要なのは進歩と保守の調和だ。保守や進歩の両極で駆けると和合からどんどん離れていく。そのような点からクリスチャンがまず手本を見せなければならない。一例を挙げてみる。

市内バスに乗った。バスが停留所で停まるたびにだんだん乗客は増えていく。さて、バス内が人で埋め尽くされた。苛立つ人たちが出てきた。再びバスが停留所に停まった。その時、数名の乗客が運転手に言った。

「運転手さん！もうこれ以上乗せるのはやめましょう。」

このような言葉を使う人は利己的なクリスチャンだ。

しかし、またある部類の人はこう言った。

「少し不便ですが一歩ずつだけでも後ろに下がりましょうか。」

このような人は健全なクリスチャンだ。

魂を救うことにすべてを懸けた

韓国教会は共に遠くへ行くという訓練が必要だ。韓国教会は教会員と社会に感動を与えることに失敗した。今日のクリスチャンたちは笛を吹いても踊ることをしない。悲しそうに吹いても

心を打たれない。今、教会が笛を吹かなければならない。救いの笛、福音の笛を鳴らさなければならぬ。そして彼らを踊らせなければならぬ。

これが教会の使命だ。教会は鶏と同じ存在だ。鳴かない鶏は鶏ではない。せまい養鶏場で富貴と栄華のえさをついばもうと鳴くことを忘却した肥えた鶏は、伏日（日本で言う土用丑の日）に栄養食として最期を迎える。

教会は世に対して続けて「悔い改めなさい」と言い続けなければならない。私も世に向かって絶えず叫びたい。そして死んでゆく魂を救う働きにすべてを懸けたい。これより貴い働きは無いからだ。

日本南端海域に沖ノ鳥島という小さな島がある。干潮時には2m、満潮時は30cmの高さの岩しか見えない小さな島だ。日本は珊瑚礁の間にそびえるこの場所が波で磨耗され消えたり、海水面の上昇で沈んだりしないように神経を尖らせている。もしこの島が海に隠れ痕跡を隠してしまったら、日本は領海を失うことになる。そのため、突出した部分にセメントを塗り、磨耗を防いでいる。お金で換算すれば何文にもならない非常に値打ちの無い沖ノ鳥島を置いて日中は今も争い続けている。

なぜなのか。目に見えないものは小さな岩ひとつだが、それが国家の領土だと認められれば、非常に大きな権利が与えられる。海の中に埋まった石油、ガス、水資源、鉱物類、などがすべてその国家の所有になる。この小さな島によって、日本は本土より大きな40万km²の領海を確保した。小さな岩ひとつが国家の地図を変えてしまうのだ。岩だけを見れば大した事はない。岩だけを見れば使い物にもならない。しかしその岩によって得るものは想像を超えるのだ。

聖霊を受けることで力を得る

人も沖ノ鳥島と同じだ。人は素焼きの土器のように弱く割れやすい存在だ。すべての罪の形を持っていた。しかし、この使い物にもならない素焼きの土器の中に非常に多くの宝が隠されている。人の心の中にキリストの霊が座れば、完全に新しい存在へと変わる。人の身体はとても小さいが、そこに神様の霊が留まれば無限なる可能性を持つ存在となる。その一人の人間により家族と親戚、社会と国家が変わる。神様の似姿に造られた人間の霊的な資源は驚くべきものだ。だから私は魂の救済にすべてを懸けるのだ。

21世紀世界教会の主流(Main stream)はペンテコステの聖霊運動だ。これは著名な神学者、フーレンバガー（バーミングハム大学）、ハビーコックス（ハーバード大学）、ナモルトマン（テューベンゲン大学）が既に予見していたことだ。すべての教科は御言葉の基礎の上に建てられたため、聖霊の働きだけがすべての問題を解決するカギだ。イエス様の弟子たちは3年半の御言葉教育を受けたが、依然として無気力な存在だった。しかし、聖霊を受けた後から力を得て世界を変えさせた。使徒行伝に出る聖霊運動は社会改革運動であり、霊的リバイバル運動であり、愛の実践運動だった。社会がなしえない働きを教会が担った。教会がやもめと孤児を守ってきた。教会の中では社会的地位の力を発揮できなかった。教会の中では皆が同等な神様のこどもだった。教会の中では身分や地位は全く何の意味も持たなかった。これが望ましい初代教会の姿だ。

「主よ！使徒行伝の教会と同じような教会となるように御導きください。」†



夜明けが差し迫っている



夜が更けてから、夜明けは来る。アメリカの基督教の偉大な遺産が、再び回復されている途中である。アメリカの経済が好況を享受していることも、神様の恵みの証拠の中のひとつであるが、それより重要なことは、アメリカを偉大につくり上げた価値が、少しずつ回復しているという事実である。

古代イスラエルには王がいたが、現代では大統領がある程度、王のような役割をしている。だから、国民が親キリスト教的であっても指導者が反キリスト教的であるなら、神様の国の中でその国は山羊の国になり、審判を受けるようになる。

1993年から2001年まで、アメリカの大統領であったビル・クリントンは、ある演説で、今はポストモダニズムの時代であると話した。ポストモダニズムという言葉は、すぐに全世界的

な流行語となり、その時からポストモダニズムという言葉がこの時代を規定するようになった。絶対的な価値や原則が支配する時代は、ビル・クリントンと共に消えてゆき、個人の主観的な感情と解釈が重要となった。ビル・クリントンは大統領の時、ひと月の間、同性愛者のための祝祭を始めたりもして、彼の妻は過激なフェミニズム政策を主導した。

同性結婚の合法化であったり、異性間での愛以外に同性愛をも認め、尊重せねばならないという言論と学会、政界の主張は、クリントン大統領の時から本格化した。彼が旗を振るや、あちこちでいくつかの組織と団体がひとつの場所に脚を揃え、基督教の価値を崩す文章、映画、哲学、倫理論、政治政策等を吐き出し始めた。イギリスなどヨーロッパの国々が、進歩左派、社会主義国家として変化していったことも、このように周密に動く国家的な団体と機関、財団があるため可能であった。

ビル・クリントンの後に執権したブッシュ大統領は、回心したクリスチャンであった。ブッシュ大統領は親キリスト教的な政策を広げようとしたが、アメリカの言論、学会、文化界、政界は全般的にビル・クリントンが開いておいた道を行進していった。

前任アメリカ大統領オバマは、アメリカがこれ以上基督教国家ではないと宣布しただけでなく、ホワイトハウスの前で慣例的に行われていた祈祷集会を禁止させ、その代わりにホワイトハウス内でイスラム教徒の祈祷集会は許諾した。彼は聖誕節をイエス・キリストの誕生日でない一般の公休日として変えようとした。クリスチャン達は、差別と弾圧を受け始めた。

ある小学校では、教師が12月25日を聖誕節であると称した活字を書き、その絵を描いた学生を精神病の治療が必要である

という評価を下ろすこともあった。ニューヨーク州では性的嗜好が 32 種類あり、そのすべての嗜好がすべて尊重されねばならないと発表したりもした。

オバマ大統領の時、アメリカの真実なクリスチャンたちはアメリカのキリスト教とアメリカの国運が終ったと思った。神様はアメリカの教会にずっと前から団結すれば、アメリカを回復させることができるという御言葉をくださったが、教会はその時まで団結できなかった。クリスチャンたちは、社会の外郭勢力として締め出され、実際に迫害を受け始めると、初めてクリスチャンたちは団結をし始めた。お弁当を持って、自分のお金を使ってキリスト教の価値を守り、愛国的な政策を開く政治家を支持するなどの積極的な行動をし始めたのである。

キリスト教の価値を回復するための運動が起きている

私は最近、カナダのクリスチャンたちの中でも、キリスト教の価値を回復させるための強力な運動が起きているのを見ている。多くの教会が政治家たちの政策を検討し始め、反キリスト教的な政策を開く政治家たちを牽制し始めた。

カナダではキリスト教の学校でも、同性愛などすべての種類の性的な嗜好を、正しく望ましいものとして教育していかなければならない。未成年者でも子供に性の決定権がある。家庭で未成年の子供が性転換を決定するなら、父母はその決定に反対できない。反対するなら、児童虐待として監獄へ行って、子供の教育権を奪われることがある。更にそれにもまして子供がある日、自分は、今はもう女だから娘としてみてくださいと言え、父母はそうしなければならない。子供を説得することは、児童虐待の行為としてみなされる。クリスチャン法曹人、教師、公務

員として仕事をしようとしたり、また仕事をしているクリスチャンたちは差別を経験し始めた。

キリスト教の存続自体が脅かされると、カナダでは今や賜物集会でもしだいにグローバリズムと反キリスト教政策に関する講義が入っていった。卓越して成熟した多くのクリスチャンたちが大小の選出職に挑戦しなさいと呼び掛けられ、チャレンジをもしている。政治家は、法を変えることができ、法が反キリスト教的に変われば、キリスト教国家が一度に山羊の国になることを経験した後、積極的に政治参与をし始めるであろう。政治権力を持つためでなく、公義と真理をこの地に実行するため、選出職にチャレンジしているのである。

カナダの教会内では、政治的などんな発言もすることができない。しかし、クリスチャンたちは明らかに立ち上がっていて協力をしている。政治家になるであろうという考えを一度もしたことのない人たちが神様の召命を受けている。国家のための祈禱会も活発に開かれている。そのような努力が実を結び始め、今カナダの国会では歴代の国会の中で、一番クリスチャン国会議員が多い。

聖書の御言葉が、絶対的な権威を持っているのではなく、個人の感情と解釈に更に高い権威を与えねばならないと主張し、男性も自身が女性であると感じるなら、女性であると認めねばならないというポストモダニズムは、教会の心臓を狙っているが、暗闇が深まった後に、夜明けが訪れるように、絶対に放棄せずに神様の前にへりくだり、ひれ伏して神様の御顔を求める教会がある、ひとつの夜明けがやって来る。暗闇が深まってきたと言わないで、夜明けが差し迫ってくると言おう。

揺り動かされているすべてのものを、神様が揺り動かされる

時は、それは新しい秩序を立てるためなのである。教会が権力と富を失ってしまって弱い時、神様が働き始められる。教会がイエス・キリストだけを信頼し始める時、教会は回復され始める。晩には泣き声が留まっても、夜明けには喜びがやって来るのである。

クリスチャンたちが現実を正確に認識し、キリスト教の価値を守るため、社会に積極的に参与せねばならないと、私は信じている。1970年代、アメリカでイエス運動が起きた時、道を通り過ぎる人々へ伝道用紙のみ手渡しても、イエス・キリストを迎え入れた。人々はまさに待っていたかのように福音を受け入れた。私は全世界的にそのような強力なリバイバルが起こるためにも祈っている。†



ヘンリー・グルーバー牧師

「世界を歩くとりなし祈祷者」として知られている筆者は、18歳の時アメリカのアリゾナ州フェニックスの虐犯地域で主と共に歩み始められ、今日まで主と共に歩んでおられる。彼は全世界のどこでも彼が会おう人たちのために祈られ、福音を伝えておられる。彼の人生には超自然的な奇跡が多くあるが、もっと重要なことは彼が神様の御言葉に従順して歩みながら祈っておられるという事実である。

約束の主、約束の人

今年の初めに主の御前で約束したことと、感動的な夏のイベントを通して大きな恵みの中で主に捧げた約束の数々を今、思い出してみてください。良い本、感動的な話を聞き求めようとばかりせず祈りと礼拝の中で聖霊の感動により主と自分との間で交わした約束のうちに一つでも実りますように祈ります。

今から17年くらい前のことです。私はあの時、人生で一番苦しい時を過ごしていました。貧乏だったので、カード会社から現金サービスを受けて頭金を準備し、安陽8洞、坂の上にある小さな部屋で新婚生活を始めました。熱い思いだけで、経済的準備は全くない伝道師が、借金をして建てた教会から伝道師として呼ばれたので、月55万ウォンの謝礼を時々頂きました。車など夢見ることもすらできなかったもので、家内はあんなに思い数十冊の問題集を両手に抱えて、一日ずっと学習熱の先生として

働いていました。本当に貧しくて辛い毎日でした。光熱費が3か月も滞納することはいつものことで、黒い背広を着た男たちが丘の上の家まで上って来ては、なぜ借金を返さないのかと怒鳴ったりしました。

こんな渦中にいても私は、主が与えて下さった訓練過程を信仰と祈りだけに頼って乗り越えるつもりでした。小さな祈禱会に参加しながらすべての状況を主に感謝し、一日に2～5時間祈り続ける訓練をしました。そんなある日、その集いで「聖霊の導きによって生きている」と話している女性伝道師に会いました。その伝道師は「中古のノートパソコンがぜひ必要だ」と私に言いました。それで私はその女性伝道師のために中古のノートパソコン一台を購入して、要求されたプログラムも設置してあげました。私の謝礼のほぼ半分を費やしました。とても真剣な頼みだったし、ノートパソコンを買ってくれば、すぐにお金は払うと約束したからです。

その伝道師は私とは異なる状況の人でした。家を持っていて自家用車も乗り回していました。お財布には常時現金が入っていました。

その伝道師は、本当に、私とは違う人でした。中古のノートパソコンをあげたら「次に会ったとき渡す」と繰り返すばかりで、結局、約束を守りませんでした。中古のノートパソコンだけ渡して費用はもらえませんでした。そして17年に経ちました。17年の間、経済的に苦しくてつらい時は、あの伝道師先生から返してもらえなかったお金が、あたかも慢性神経痛のように私を苦しめました。しかし、時が流れて主にあって赦すこともできました。今はどこに住んでいるのかも知らないし、そのお金を

返してもらうつもりありません。でも、もしその伝道師先生から同じようなことを頼まれるとしたら断わるはずです。その理由は、約束を守ってくれなかったからです。

聖書の中には数多くの約束（契約）があります。神はアダムを始めとしてノア、アブラハム、ヤコブ、そしてダビデに続く多くの信仰の人々と約束を結ぶ、約束の神として私たちの前におられます。ここで「契約神学」という神学用語を使わなくても、聖書には神と人との契約が続けられています。聖書は、古い契約である旧約と新しい契約である新約で一つになります。その契約の頂点にイエス・キリストがおられます。主は私たちに、聖霊様と永遠なる御国を約束されました。今もその約束は守られています。大事なものは、神はどんな状況や事情があっても、人との約束を必ず守られる方だということです。主はまことに誠実なお方です。「慈しみ」と訳されるヘブル語の「ヘセド」は、私たちが旧約聖書を読んでいると時々出会う言葉です。神が私たちを愛されるがゆえに結ばれた契約を、神は真実に守られるという意味が含まれています。

約束は結ぶものではなく、守るもの

問題は人です。人々は、このように尊い神との約束を賜ったにもかかわらず、その契約を絶えず破って来ました。食べてはならないと言われた善悪を知る木の実を食べました。いのちを与えるために律法を守れと命じたのに、ずる賢く破りました。約束の地を与えようとしても恐怖心に捕われて諦めてしまい、神にだけ仕えなさいと言われたのに偶像を作って拝みました。

今日も同様です。人々は神との約束を軽く考えます。礼拝の

約束、祈りの約束、御言葉の約束、聖霊の約束、十字架の約束をあまりにも容易く破ります。神との約束を破る人は、人との約束の容易く破ります。教会を開拓してから今まで、うかがいます、後援します、祈ります、援助しますなど、数え切れないほどの約束がありましたが、ほとんどは守られていませんでした。約束に問題があったのではなく、その約束をした人に問題があったからです。

今、大事なことは自分だと思えます。自ら神と交わした約束は何であったか、人と交わした約束は何であったか、先にその約束を覚えて守らなければなりません。今年の初めに、聖書一回通読することを約束したなら、必ず守らなければなりません。宣教師たちや聖徒たちに「執り成して祈ります」と約束したなら、ひざまづいて祈らなければなりません。誰かを後援しようという心を主が下さったならば、今からでも従順しなければなりません。

悪霊は私たちが約束することを邪魔しません。ただ約束を守れないように徹底的に邪魔します。状況のせいにして、気変わりを起こして約束を守れないように、巧妙に働きます。その上に、始めの決心が揺れ動き、足りなくて違うものになるように誘導します。

詩篇 15 篇でダビデは「主よ、あなたの幕屋にやどるべきものはだれですか。あなたの聖なる山に住むべきものは誰ですか。」と質問した後、「直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」だと答えます。

パウロはガラテヤ人の手紙 4 章 8 節で「イサクのように、約束の子である」と宣言しています。約束は完結されたものではありません。未来が開くだけです。約束は素晴らしいものですが、

取り消されることもあります。約束は結ぶものではなく、守るものです。

教会の担任牧師として生きる私は、無数の約束の中で過ごしています。礼拝の約束、祈りの約束、仕える約束がスケジュール表にいっぱいです。祈っているうちに、忘れていた約束を思い出すと、直ちに連絡して後からでも約束を守ります。私は妻と結婚するときにした約束を 17 年間守ってきました。三人の子供に父として約束したならば、絶対に守ろうと最善を尽くしました。うちの子供たちがこんなことをよく言いますが、私はその言葉が大好きです。「心配しないで！パパは約束を守るから。」

暑かった夏が終わり秋が近付いてきました。田んぼや畑の実りは農夫と結んだ約束を守っていて、季節の変化は神が人間にされた約束を守っておられるものです。今年のはじめに神の御前で約束したことと、感動的な夏のイベントを通して大きな恵みの中で主に捧げた約束の数々を今、思い出してみてください。

良い本、感動的な話を聞き求めようとばかりせずに、祈りと礼拝の中で聖霊の感動により、主と自分との間で結んだ約束のうちに一つでも実りますように祈ります。

私は今、夏季修練会の準備で寝不足でもあり、口内炎がひどい状態でもあるのに、〈しなんげ〉記者さんのメールを読んで、主に祈りをささげた後、このメッセージを書いています。ここ数年間 〈しなんげ〉と約束した毎月、一片のメッセージを期限を過ぎることなど一度もなく書いてきました。約束の神がまさに私の神だからです。そして、その約束の神は、約束の人を今日も探しておられます。あなたこそが、その人になりますように祝福いたします。†



イ・ユミ
賛美使役者
(株)トプ教育ウイズミュージズ本社チーム長

PLUS

神様は 我が人生の希望



神様を信じなかった家庭で信仰生活を始めた祖母は、私がよちよち歩きを始めた時から、私の手を握って礼拝堂に通った。真っ直ぐな心の祖母は、みんなに認められた聖徒であり模範的に暮らしていた。そんな祖母をみて育った時間は、私にとって大切な遺産となっている。問題は私の家族だった。幼少期、弟の死は両親の信仰を奪い、人生そのものを否定した。父はアルコールに依存し、交通事故による後天性障害を負った。事業に失敗による不渡りで両親が潰れていく、そのすべての過程を七歳という幼い私は見守るしかなかった。

その後、両親と私は、一間の部屋や親戚の家を転々とし、新しい人生を開拓しようと京畿道華城にある塩田に引っ越した。引っ越しをした当時、両親のポケットには3万ウォンしかなかった。塩田が与えられた床暖房のない部屋で新しい生活を始めた。二人の妹が生まれて大人になるまで苦しくつらい生活が続いた。そうした生活の中、私と妹たちの心が晴れる唯一の出口、そこはまさに教会だった。

町の最も高い丘の上にそびえていた教会は、私たちにとって

安息の場であり、階名も知らなかった私はピアノをポロン、ポロンと弾きながら賛美し、遊ぶことができた場所だった。遊びとして始めたピアノは、十五歳の時から約15年間礼拝の伴奏をするほどのものになった。十歳の時には、担任牧師先生の推薦で、全国子ども童謡大会に出場、初経験だったが、銀賞を受賞する快挙にも恵まれた。

中学校の入学後にも、思ってもみない歩みが続いた。音楽の先生（芸園学校、ソウル大出身）が無料で声楽レッスンをしてくれた。中学校1年生と3年生の時には、学校代表として管内の学生音楽コンテストに出場し、それぞれ優秀賞、金賞を受賞した。高校1年生の時は全国学生音楽コンテストに出場して優秀賞を受賞し、実力を認められた。しかし、家庭の支援が必須な音楽の道は、私の家庭の事情では希望することもできず、そのままあきらめた。高校時代は、家計に助けするため家庭教師のアルバイトし、奨学金をもらうために勉強した。高校卒業の時は1等級となり奨学金を受けた。

S女子大に合格したが、家族を思いソウルでの大学進学をあきらめ、家から最も近い大学で幼児教育を専攻した後、幼稚園で働いた。その頃の私は、かたくなな心で満ちた生活が続いた。鋭く冷たかったし、人々との関係には努力せず、信仰生活は献身があるだけで感謝と恵みがなかった。ただ、すぐに結婚してこの家を離れなきゃという考えだけだった。若くて花のような二十三年の時、望みの通り、私の前に一人の男が現れた。

外見と職業（建設業社長）が優れていたイケメンだった。それなりに相手のことをよく知らなくてはいという思いもあり、牧



師先生ご夫婦と一緒に会ったが、すべてが良く見えた。素敵な出会いだった。家庭にも紹介し、交際を続けたが、三、四カ月が過ぎると、彼は本性を現し始めた。間もなく組織暴力団で指名手配者だったことを知った。すでに、私の周りの人を脅していたので、誰にもその事実を言えなかった。

お金を手にいれて来いと暴力をふるわれた。その人の家族に会ったとき、全員が暴力団関係者であることを確認し、言うことを聞かないと売春街に売り飛ばすと脅迫された。1年近くもの間、私は人生に疲弊していった。ご飯も食べられず、眠ることもできず、体は痩せ 38kg まで体重はおちていった。もう希望がないと思っていたその時、私に一通のメールが届いた。「ユミ先生、今どこで何をしているかわからないですが、先生を愛して、思いながら祈っている人がいるということと、いつも共におられる神様を忘れないでください。」

いつも神様が共におられた

そのメッセージを見て「そうだ、私には神様がおられる」と

思い、彼から逃げ出して、牧師先生に助けを求め、全羅道（韓国の地名）の社会福祉施設に行くことになった。その時から、孤独との戦いが始まった。施設で過ごす間も何もできず、食べることも、眠ることもできなかった。ただ「神様、助けてください」「どうして私にこのような事が起こりますか？」という言葉だけを繰り返し、毎日を過ごした。

30 日目となった日、「聖書を開きなさい」という御声を聞き、聖書を開くと、そこには、ローマ書 8 章 35 節から 39 節までの御言葉が示されていた。「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか（中略）そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」この御言葉をまるで 3D のように、神様は私にみさせてくださり、間違った心を悔い改めさせ、私が造られた目的について、悟るように示してくださった。そして、人間に知恵を与えて下さり、作った刀について黙想した時、食材を切るために作った刀が殺生の道具として使われることを悟り、私が造られた理由は、神様を賛美するためであることを宣言することができた。感謝をもって施設を離れ、再び神様の元に戻るようされた。

以降、教会の宣教団の団長に立てられることになり、実力をしっかりと積みたいと思って訪ねた一山（イルサン）の CCM 企画会社で団員と共にギターを習い始めた。不思議なことに、そこで会った先生（現在の夫）が私に歌を歌うことを勧めた。そこで約 1 年間、歌を学んだ後、先生から使役者を探していたソリエルのジ・ミョンヒョン牧師を紹介して頂いた。有難いことに、会ったその日の夜には契約することが決まり、その後 2 年間でアルバム制作、2003 年 10 月にはソロアルバムを発表、この

地に賛美する人として立つようになった。

働きを始めて1年も経たないうちに、両親と弟は再び信仰生活を始めるようになった。その後、両親は執事の任命も受けるようになった。個人的には勉強に対する夢もまたみるようになり、結婚と出産後の三十五という遅い年齢であったが、実用音楽学部編入、編入後2年間学費免除の奨学生として卒業した後、大学院にも進学した。大学院でも引き続き奨学生に選定され、毎学期、学費の20%奨学金を受けて、現在も在学中である。

いつの間にか、上の子は十三歳、下の子は十一歳になり、夫は神様のおかげで、ヤンジェで録音スタジオを運営し、作・編曲者として活動している。私も賛美する場と音楽教育会社の本社チーム長としての人生も歩んでいる。みんなの人生がそうであるように、人生の中で絶えず働いてくださる神様を経験させてくださり、感謝を告白することになった。今年、四十一才、一般的な人間の生活で考えた時、もう半分は過ぎてしまった人生だが、振り返ってみると、すべてが恵みであり、今、この瞬間にも、インマヌエを告白することができ、感謝している。

誰かが私に信仰とは何かと聞くなれば、ためらうことなく「希望」だと言いたい。そして、まだ夢見て祈る。「神様！神様が描いたイ・ユミとしてよく生きるようにしてください！与えられた人生、最善を尽くして生きて行きます。」†

✳️これが知りたい | シン・ソンジョン 牧師、＜クリスチャン文学の木＞編集者

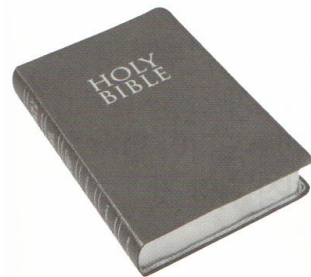


原本のない、写本だけで決めた聖書を いかに信じることができるだろうか

私たちは、聖書は絶対に誤りがないと信じている。それは、私たちの信仰が聖書に根拠しているからだ。しかしよく知っているとおり、聖書の原本は一つも残されていない。全部写本をもって翻訳されたものだ。そうであるならば、聖書に少しばかりの誤謬はあるのではないだろうか、という疑問が生じてくる。

しかし、私たちが聖書に誤謬がないと信じるのには、科学的根拠がある。今や私たちが原本だと認めている写本は、古書検証法によって認定されたものだ。私たちが知っている通り、ホーマーのイリヤードやシェイクスピアの戯曲も、古書検証法を通して原本を作り、それを翻訳したものである。これらの写本は643冊あるが、本と本の間の誤謬は5%にすぎないという。しかし聖書の写本は、2万4千633冊もある。そのため、古書検証法による原本の正確性は、イリヤードの正確性を「1」とすると、聖書はその8千倍にもなる。それゆえ、聖書は実際的に誤謬の可能性が全くない、と信じて良いのである。

それに、誤字の過ちを見ればより信頼できる。その一、綴りの過ちからくる誤謬がある。例えば、「教会があなたがたによろしく」を「交會があなたがたによろしく」になっている場



合だ。誰が見ても校訂された写本が正しいとわかる。その二は、接続詞の誤りによって生じる場合だ。例えば、現代の分には「、」や「。」を付けるが、古代には「、」や「。」を付けずに使用していた。その三は、聖書を複写する人たちを「タルムジスト (Talmudist)」と呼んでいるが、彼らには万が一の誤字のため、19の規則があった。その中のいくつかを見てみると、常に同じ洋服を着用すること（洋服が変われば心が変わることがあるから）。必ず黒いインクだけを使用すること。複写する際には写本ではなく、必ず原本を見て書き写すこと、などである。

筆者は写本学を2年間研究した。結果、聖書に誤字があるならば、例えば「イエス」という言葉が「キリスト」、あるいは「主」、ないしは「主イエス・キリスト」と書かれた場合がしばしばある。こういう場合、写本の筆者は、原本に付け加えることができるため、短い写本を原本により近いと認める場合が多い。そのため、純金を確認する時より、聖書の写本を通して原本を見出す確率が、何万倍もより正確である。それなので、写本を通して原本と見なし信じるのは、科学的であり、信仰的姿勢であると言える。†

✳ 特別寄稿 | 人が悔い改めるなら、地も回復される

ソン・ヒョンギョン 牧師 アメリカ・ゴスペル・フェロウシップ教会



主なる神が、人を通して書き記された聖書の始めは、神が天地を創造されたというニュースだ。全能なる神は、ご自分にかたどって最初の人間をお創りになった時、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」(創世記1:28)と命じられた。最初は、そういう能力をアダムに与えられたようだ。その神の御命令が人間を創造なさった目的だったのである。どのようにして人間が、海の魚と空の鳥までも支配することができたのだろうか。

また、主なる神は、見て美しく、食べるに良い木を生えさせ(創世記2:9)、種をもつ草と、種のある実を食べるようにされた(創世記1:29)。しかし、黙示録にサタンと示された古い蛇は、神が「食べてはならない」とアダムに禁じられた二つ目の命令、園の真ん中に植えられた善悪を知る木の実を食べるように誘導



①はボウン・イエス村全景、
②③はボナ教会外景と礼拝風景

した。アダムは、海の魚と空の鳥を治める能力と命令を行使することもなく、たった一つの神の戒めを軽んじ、善悪の実を取って食べてしまった。

彼は、神から与えられたエデンの園の外の海の魚を治める権威を使わずにいた時、サタンに騙され、エデンの園にある善悪を知る木、その一本の木だけに集中していた。空の鳥を治めるように創造された、その目的さえも忘れたまま。

結局、アダムは、神から与えられた能力を一回も使わず、その能力を失い、その命令も守ることができなくなってしまったのである。

私たちが犯した罪は、結局、私たちを不幸にするのである。アダムの罪のゆえに、地は呪われ、神の創造物でもない、いばらとあざみを生えさせた。

それゆえ、私たちは、いばらとあざみの生えた地が本来の地であるかのように思い込み、当然のように、海の魚と空の鳥も治められないと思いながら生きてきた。アダムが生まれてほぼ

5千8百年ぶりに、オイルで動かす自動車を造り、5千9百年ぶりに、フロンガスを利用した冷蔵庫とエアコンを造り出した。しかしながら、自動車の排気ガスとエアコンによって天のオゾン層は破壊され、私たちの体は、赤外線から保護されなくなってしまった。人間が作った便利な都市で、私たちは息苦しい公害の中で暮らすようになった。目に見えるものは自然より便利になったが、神がお創りになった目に見えない素晴らしいものは殆ど失われてしまった。爽やかな空気と体を癒す本来の光を……。アダムと私たちが犯した罪のゆえだ。

キリストがこの地に来られた理由

もはや私たちは、人間がつくり出したピラミッド構造の政治・経済の体制の中で、競争から負けた大衆はパロ王の奴隷のように、ピラミッドの下段部分で辛うじて生きて死んでいく、虚しい人生となった。そして、競争から勝ったピラミッドの上段部に属する少数の人たちは、神が彼らに与えられた責任と使命を忘れたまま、富と権力の特権だけを享受し、神の審判を迎えるサタンに騙され、空虚な人生を生きている。天地と人間を創られた神を知らない人生は、すべてが虚しい。今はサタンに囚われ、騙されているために分からないだけだが――。

幸いにも、2千年前にこの世に来られ、十字架に架かって死なれた神の御子イエス・キリストは、三日目に墓からよみがえり、罪の結果である死、それ自体を打ち負かされた。その死は罪人たちの手を借りてなされたが、その復活は神ご自身が、自ら成し遂げられた。それゆえ、新しい創造というのである。キリストの死は、すべての人々から見られるように十字架に架けられたが、キリストの復活は初めから最後まで、つき従っていた弟

子たちにだけ見せられた。

ところが、神の御子キリストは、罪人の鞭と金槌に打たれ、死よりも苦しい苦痛を受け十字架上で死なれた。その理由は魂を救うだけではなく、この地をその復活の力によって回復しようとされたのである。サタンは、この二つ目の目的を軽んじるように仕向けている。なぜなら、天国からは追い出されたが、今やアダムとその子孫たちの罪のゆえに、この地は彼に与えられているからだ。主は、救われた魂を教会の光と塩ではなく、世の塩と光としてお創りになっておられる。神を追い求めるならば、——「わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その地をいやす」（Ⅱ歴代誌 7:14）——と仰せられる。

『ボウン・イエス村』と

アマゾン、悔い改めることで変化された地

2002 年、韓国のチュンブク・ボウンで、三つの家庭が都市と大型教会を離れ、共同体を始めた。共に力を合わせ営んだ農業は失敗に終わり、財政は底を尽き、互いの意見対立により、関係は破壊され、別れることになった。しかし、その前夜に、彼らは何時間も互いに喧嘩をしたという。意見の違いのゆえに——。

主が、その晩、共同体の成功の前に、悔い改めの霊を注いでくださり、喧嘩した時間よりも長い悔い改めの祈りがなされ、その後、聖霊が注がれた。「互いに別れようとした次の日の朝、驚いたことは、悔い改めて聖霊が注がれても、互いに主張していた意見は変わらなかった」という『ボウン・イエス村』のリーダー、カン・ドンジン牧師の告白は感動的だった。

悔い改めて聖霊が注がれても、創造主から与えられた気質と観点は変わらないのである。しかし、その日の朝、彼らは自分の意見よりも、肢体の存在が最も大切に思えるようになっていた。これこそが、悔い改めにふさわしい実と聖霊の実である。

チュンブク・ボウン村で、一生唐辛子を育ててきた村の御老人の唐辛子畑では、一株 60 ～ 70 個の実を結んでいた。共同体の唐辛子畑では、それ以来、一株 350 ～ 550 個の実を結んだという。豆畑やえごま畑やあぜでも——。

鳥インフルエンザが流行しても、その地域のひよこたちは健康だった。足を痛めたひよこが祈りによって癒された。この世において、霊的な関係が回復されれば、その地を癒すと、ソロモンが聞いた神の御言葉が成就されたのである。村の名前まで、『ボウン・イエス村』に変えた。人が悔い改めるなら、地も回復される。

2013 年に亡くなったホ・ウンソク宣教師が住んでいた村は、ブラジルで、アマゾン本流の根源であるネグロ川（黒い川）が赤道を横切る、湿度の高い蒸し暑い所だ。それゆえ、マンゴーの木があっても、実を結んだことはなかった。ところが、ホ宣教師が亡くなる前に、原住民神学校に悔い改めの風が吹いた。休息時間にも森の中で祈り、互いの罪を告白し合うことによって、人々が主のもとに来るようになった。驚くことに、黒い川神学校周辺では、それ以来、マンゴーの木から実がなり始めたのだ。緑の地獄と呼ばれたブラジルの黒い川でも、人類の歴史に類を見ない、自然が回復されるという奇跡が起こったのである。

この世の光と塩である主の教会

神社参拝の罪のゆえに、抑圧と暗やみに覆われた北朝鮮の地に、共産主義の歴史にもない、世襲が3代目に継がれている。呪われたいちじくのような北の地も、主は回復させたいと願っておられる。ただ悔い改めによって——。人が回復され



ば、地も回復される。神は彼らの罪を赦し、彼らの地を癒してくださる（Ⅱ歴代誌 7:14）。

独立した初期、暗殺の血に染まった韓国の地の政治は、前職大統領が亡くなったり監獄に入ったりと、依然として慌ただしく、法曹界までも疑わしい。義を守り抜くほど、法が真つぐではなく、権力者たちに影響を与えたり受けたりで、適当な量刑を受けて出てくれば、罪の結果を享受できる社会だ。経済は、国が豊かになるほど、富益富、貧益貧——富む者はさらに富み、貧しい者はますます貧しくなる——の社会になっていき、共産主義者たちが自生できる地となった。貧しい者の社会にばかりでなく、彼らを利用した政治圏にも、赤い勢力が寄生するほど腐敗しつつある。

この世の光と塩は、主の教会だ。その教会が、光を失ってしまった。それゆえ、朝鮮半島の地は互いにぶつかり合って転び、危険である。小さな蠟燭の火を灯すだけで、部屋全体が明るくなるように、教会が悔い改めるならば、その教会が建てられた地は回復されるのである。アマゾンのマンゴーとボウン・イエス村の唐辛子の如く——。†



文化の働きと 教育を通じて 次の世代を 神様のもとへ

「大邱（テグ）は生産都市ではないため、若者達の就職が難しいです。それで多くの若者は、他の地域へ行って社会生活をスタートするようになります。そのために、若者達は常に将来に対する不安感を抱えて生きていかなければなりません」と、イー・カンフン伝道師は話した。

イー・カンフン伝道師は数十年間、慶尚北道・慶尚南道地域を中心に、次世代を立て直すため、十何年間賛美の働きをしながら、愛と慰め、福音を宣べ伝えるリーダーとして活躍している。

「大邱（テグ）の福音化率は3割程しかならず、生産都市でもないため、親たちは子供の成功に非常に執着心を持つようになります。だから子供達に情熱的な信仰を持たせることより、

勉強と教育を優先させる傾向がとても強いのです。何よりも優先順位が一番に勉強を選択させていることが多々見受けられます。それでも11年もの間、ラジカル・ワーシップ(Radical worship)代表として、数多くの教会や学校などを回りながら、神様に献身し準備された貴重な魂にたくさん出会うことにより、私たちの未来がそう暗くはないことを感じることができました。月に一度のラジカル・ワーシップ定期礼拝も、初めの頃は二十人余りの集まりでした。その人数が約150人へリバイバルすることを経験しながら、次の世代に向けた神様の夢を見ることができました。」

いじめによって傷ついた子供達が、ここで礼拝しながら新しい友達に出会い、過去の自分とは全く違う明るい姿に変化したり、家庭で大きな傷を受け、心を痛めた子供がラジカル・ワーシップを通じて癒されていることを目の当たりにしたある牧師は、イー伝道師に「ありがとう」と感謝の言葉を伝えた。

ラジカル・ワーシップは、2017年12月30日に捧げた礼拝を最後に、リーダーと礼拝者がお互いを世間に向けて派遣し、終了した。

「周囲からは、ラジカル・ワーシップの反応は良いのでずっと継続してほしいという話も多かった。しかしいくら祈っても、それは神様の御心ではありませんでした。既に5年前から、それぞれのメンバーたちは自分達の仕事を持っており、着実に準備をしてきました。最も良いタイミングで、神様がラジカル・ワーシップを格好よく締めくくるようにしてくださいました。」

イー伝道師は、第二の勤務地である安山(アンサン)の小さな開拓教会(罪人教会)で、次の世代に仕える働きを始めた。

「小学校の時から音楽を愛した父のおかげでギターを習い、中

学校時代から賛美チームに参加し、先輩たちにまた学びました。高校時代には自ら校長先生を訪ね、当時学校になかったバンドチームを結成する許可を受けました。あの時に会ったバンドチームのメンバーがラジカル・ワーシップチームとなり、これまでも変わりなく友情で結ばれているのです。ところが、神様は私に他の使命を担わせ、全然違う場所へと私を遣わされました。」

彼がこのような決定をするようになったきっかけは、去年のイスラエル訪問だ。一緒に同行したEMT制作会社ソ・ジョンヒョン社長は少年院での働きを、ウィードマームのイ・ヒョチョン社長はシングルマザーに仕える働きを担っている。イー・カンフン伝道師は文化使役のため、音楽と様々なメディアコンテンツに関する仕事が可能である。三人が集まれば、ネクストジェネレーションを、神様の子供として導くことができる。それで一緒に歩むことにした。

「当教会は、オープンされた教会ではなく、メンバー制です。少年院で出願した若者達、シングルマザー達が神様の前に礼拝し、自分たちに向けられた神様の御心を見出し、その道に従っていく姿は、本当に素晴らしいです。すでにウガンダに教会を開拓するための献金を集め、ウガンダ出身の宣教師を輩出いたしました。」

愛と福音は、心を開く

最近、イー・カンフン伝道師は「教育」に対する新たな夢を抱いた。この心を彼が深く抱くようになったきっかけは、高校時代に出会った塾の先生にある。

「高校1年生の時、塾の先生をととても困らせた覚えがあります。この先生に対し、私はいつも心に負い目がありました。」

クリスチャンだった塾の先生は、ご自分が通っていた本教会が塾と遠距離だったため、水曜日ごとにイー・カンフンさんの父親が牧会している教会（イ・デウ牧師・大邱シンチョン教会）で、礼拝を捧げた。この先生が塾を退職する時、イーさんに短いメッセージを残した。「カンフン君、あなたのアイデンティティは教会の中にあるんだよ」と。

「その先生との関係はそれほど深くなかったが、短いそのメッセージが自分の中に深く植え付けられました。生きていく中、たびたびこのメッセージが思い出され、先生にまた会いたくなりました。名前も知らず、ただ覚えているのは長いパーマの髪形と背がとても高かったこと、通っていた教会の名前だけがぼんやりと残っているだけでした。」

そうして、機会が訪れた。先生が通っていた教会から賛美リーダーの依頼がきたのだ。いつもより早い時間に教会に訪れたイー伝道師は、担当執事様とお茶を飲みながら、十数年前に出会ったその先生について尋ねた。ところが傍にいる他の執事様が、「ヨンウンさんのことを言うようだが…」と言った途端、表情を暗くした。

「先生が結婚してから数ヵ月も経たない頃のことです。急に脳出血で倒れ、2016年に天国に召されたというのです。あまりにも衝撃的でした。その気持ちを抱いたまま集会で賛美をしメッセージを語っていると、教会の一番後部席にその先生とそっくりな年配の方が座っていました。それは先生のお母様でした。私の話を伝え聞いた先生のお母様は、涙を潤ませながら私の手をぎゅっと握り、『立派な大人になってくれてありがたい』と言いました。両手を取り合ってどれほど涙したか…。」

話を聞くと、塾をやめた後に採用試験に合格し、ソウルにあ

る男子高等学校に教師としての辞令が出たものの、その学校で禁止されていた伝道をした。先生は、かつてイー伝道師にしたように、生徒にメモと手紙で福音を伝えていたそうだが、生徒達はそんな先生の愛を認識することができなかった。ところが、突然の先生の悲報を聞いた生徒達は、大きな衝撃に陥り、葬儀場を訪れてひざまずいて悔い改めた。先生のお母様は、「葬儀場がまるで礼拝堂のようだった」

と、当時を振り返った。その日、生徒達は泣きながら『先生が書いてくれたメッセージのように、そのような人生を生きていきます』と約束した。

「その話を聞きながら、『ああ、先生はとても素晴らしい人生を生きて召されたんだな』と、告白が出ました。私がかつてそうだったように、その生徒たちも先生の愛を深く胸に抱いて生きていくようになるでしょう。イスラエルで、このような話をイ・ヒョチョン社長と分かち合いながら、文化の働きとともに『学校を建てよう!』と、約束しました。「教育」は、子どもたちを生かせる貴重な道である、と知るようになったからです。」

イー・カンフン伝道師は今年の10月、彼のファーストアルバムの発売を控えている。今まで自作曲の複数の曲は発表しても、正式なアルバムの発売は初めてだ。タイトル曲は「アーメン」



という曲だが、これは彼の父イ・デウ牧師の説教を聞いた、その日に完成した曲だ。

「ワシの飛行法についてのメッセージでした。最も高いところに飛び、海風に体を完全に任せるワシの飛行法は、私たちがまるで体と魂を完全に神様に委ねる姿にオーバーラップされました。私もただ神の御言葉にひれ伏し従順する、『アーメン』のような人生を送りたいです。」 †



発行：純福音東京教会・出版部

【翻訳】：李カレン 執事、林俊秀教育生、間杉綾乃 サモ、李 珍 執事、趙芝賢 伝道師、
朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勸士、久保憲司 牧師

【日本語校正】：松谷恵理 執事、吉田綾子 執事、笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川 誉 執事、
澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再編集】：金澤由紀子 勸士
